

■14:05～15:50（105分） ■甲府市立図書館 視聴覚ホール

【講演】

図書館ブランディング入門

—内外に味方を増やすコミュニケーション戦略—

仁上幸治（帝京大学准教授）

概要

図書館の経営環境は厳しさを増している。図書館は自らの存在理由を見直し、独自の価値を対外的に訴求していくことを迫られている。

3つの視点が重要である。第一に、情報サービス関連業界の中で、図書館は書店や検索サービス会社、コンビニなどどこが違うのか？ 第二に、同じ図書館界でも自館の特徴は何か？ 第三に、同じ親組織（自治体、企業、大学等）の下で、図書館は他の部署にはない確かな有用性を示しているか？ こうした課題に対して、注目されているのがブランディングという手法である。

誰もが簡単に実務に応用できるノウハウとしてブランディングの基本的な考え方を紹介する。ただし、ブランディングを表面的に理解するだけでは図書館のビジュアルデザインは成功しない。あなたの図書館は何を目指しているのか？ そここで働く図書館員は何のプロなのか？ それを明確なコトバで表現し、図書館内外へメッセージとして届けるにはどうすればよいのか？ …などいくつかの前提条件を再確認する必要がある。

図書館づくりのブレない土台を構築するためには、「コンセプトメイキング」という手法に注目したい。各館の使命書（ミッションステートメント）の作成、ビジュアルデザインシステムの構築、グッズ企画書の作成などにすぐに役立つノウハウを学び、サービス現場で実践し、その経験を発表し共有していくことが必要である。

図書館サービス計画研究所（略称トサケン）では、図書館総合展の場で、図書館ブランディングセミナーシリーズを開催してきた。ブランディングは今、図書館員研修のテーマとして全国各地で取り上げられるようになっていく。

当初は「図書館ブランディング」は「館」という組織レベルを対象としてきた。その後の進化形が「館員」という個人レベルを対象とする「図書館員の自分ブランディング」である。

そして次に課題となるのが館長の役割である。「館」「館員」のレベルをさらに一歩進めて公共図書館の「館長」という職務をブランディングの視点から見直してみる。館長は館内では最上位のリーダーであり、自治体内では一サービス現場の責任者であり、市民から見れば図書館の顔である。館長には館のサービス改善の取り組み目標を決め、その目標達成に向けて実施計画を作り、自らその実現に向けてリーダーシップを発揮することが求められる。

今回の研修では、図書館、館長、館員のブランディングに必要なノウハウのうち、内外に味方を増やすコミュニケーション戦略を取り上げる（この内容は、一部文言を変えれば、大学図書館、学校図書館、専門図書館でも応用可能である）。

研修は「始まり」である。研修成果を「目に見える」形で職場や地域に提示するには、研修のあり方自体の見直しも必要である。

<目次>

第1部 ブランディングのポイント

- 【1】図書館ブランディング研究の経過
- 【2】図書館ブランディングの基本的な考え方

第2部 図書館イメージ革新の事例

- 【1】地域密着サービスの理念
- 【2】固定観念に囚われないアイデア
- 【3】事件を宣伝に活用
- 【4】ビジネス連携・スポーツ連携
- 【5】農業連携
- 【6】観光ポータル

第3部 館長のキャラを立てる

- 【1】図書館大好き
- 【2】館内に溶け込む
- 【3】市民に知られる

- 【4】役所で一目おかれる
- 【5】実業界で頼られる
- 【6】コミュニティ活動のリーダーになる
- 【7】全国区の話題でふるさと自慢

第4部 取り組みを開始する

- 【1】図書館の経営環境と図書館長の役割
- 【2】奇蹟のV字回復への戦略
- 【3】図書館と図書館員のイメージを変える
- 【4】ネックを超える—具体的・現実的・実行可能な案を作る—

- 1. 参考文献
- 2. 参考サイト
- 3. 講師紹介

*参加者アンケート

□■□

第1部 ブランディングのポイント

【1】図書館ブランディング研究の経過 *****

図書館総合展 2007

- 図書館総合展フォーラム講演会
(主催:社会福祉法人 埼玉福祉会)
図書館グッズが利用者と館員を変える！
ーイメージ戦略の先進事例ー
講師 仁上幸治 (にかみ・こうじ)
■2007年11月18日(木) 10:30~12:00 (90分)
■パシフィコ横浜フォーラム第3会場

旭川セミナー2009

- 旭川医科大学図書館主催・旭川市図書館共催講演会
図書館をもっと元気に！
ー“グッズ”活用による新発想広報のすすめー
■2009年9月12日(土) 14:00~16:00(120分)
■旭川市中央図書館 2階 視聴覚室
参加者:80名以上 展示:約60点
参加者層:幅広く

図書館総合展 2009

- 図書館総合展フォーラム
主催:図書館サービス計画研究所(略称トサケン)
図書館グッズが利用者と館員を元気にする！
ー事例発表・討論・物々交換会ー
■2009年11月12日(木) 10:30~12:00 (90分)
■パシフィコ横浜フォーラム第5会場

図書館総合展トサケンフォーラムグッズ表彰式

2010年1月29日金曜日

図書館サービス・ツール研究会

(Library Goods Laboratory) 略称 LiGLAB(リグラブ)
<http://library-tools.blogspot.com/>

グッズ研究の6つの目標

- (1)マーケティングの強化
- (2)多品目展開
- (3)メッセージの再吟味
- (4)高認知度キャラクターの起用
- (5)イベント連動性の強化
- (6)パブリシティの強化

トサケンの活動計画:5つのプラン

- (1)グッズ制作促進キャンペーン
- (2)図書館グッズ全国マップグッズ自体の完成品の写真
- (3)図書館グッズに関するセミナーの開催
- (4)研究者へのアピール

【2】図書館ブランディングの基本的な考え方 *****

ケラーの定義

「ブランディングは精神的な構造を創り出すこと、消費者が意思決定を単純化できるように、製品・サービスについての知識を整理すること」

「ブランディングにとつての鍵は、ある製品カテゴリー内で消費者が知覚するブランド間の差異である」

(5)上部団体への提言

山中湖セミナー2010

- トサケンセミナー in 山中湖
主催:図書館サービス計画研究所(略称トサケン)
図書館ブランディングフェスタ 2010
ーグッズ企画開発のためのデザイン会議ー
■2010年9月4日(土) 13:30~ 6日(月) 15:30(二泊三日)
■山中湖情報創造館
■基調講演
倉庫番からメディアクリエイターへ
ー図書館員の職種イメージを転換しようー

図書館総合展 2010

今日から使える図書館ブランディングセミナーー図書館魅力再発見計画ー

仁上幸治(帝京大学 准教授)
渡邊 崇(広告制作ディレクター)

ツクろう君しおり

オリジナルキャラクター
図書館グッズ制作推進キャンペーン
アンケートのお願い

図書館総合展 2011

今日から使える図書館ブランディングセミナー(2)ーコンセプトメイクからデザインングまでー
基調講演「ブランディングはアイデンティティの明確化から」
仁上幸治(帝京大学 准教授)
事例報告「Idea Storeのデザインワーク」青木玲子(和光大学 非常勤講師)
文献紹介「デザインングのための即効ブックトーク」丸山高弘(山中湖情報創造館 指定管理者館長)
ワークショップ「やってみよう！コンセプトメイク」渡邊 崇(広告制作ディレクター)

図書館総合展 2012

今日から使える図書館ブランディングセミナー(3)
図書館員の自分ブランディング検定
ー専門職崩壊の時代にあなたの専門職イメージは何点？ー
基調講演「図書館ブランディングの現在」
仁上幸治(帝京大学准教授)
事例報告:
井上昌彦(関西学院 聖和短期大学図書館)
小曾川真貴(公共図書館勤務)
ワークショップ:図書館員の自分ブランディング検定
石川敬史(十文字学園女子大学専任講師)

ブランド・レゾナンス・ピラミッド

4つの階層(ステップ)
6つのブランド構築ブロック
2つのルート

ブランド要素

ブランド・ネーム

ロゴとシンボル
キャラクター
スローガン
パッケージ など

5つのブランド要素の選択基準

記憶可能性
意味性
移転可能性
適合可能性
防御可能性

図書館の経営環境

存在理由の見直し
独自の価値の対外的訴求
独自の存在感

独自の存在感：3つの視点

1)業界内の位置

図書館 VS 情報サービス業界
書店、検索会社、コンビニ
どこが違うのか？

2)図書館界での独自性

自館 VS 他館
同じ図書館界でも自館の特徴は？

3)組織内の存在感

同じ親組織(自治体、企業、大学、学校等)
図書館 VS 他部署
投入資源に見合う産出
確かな有用性？

実態リアリズム

ありのまま伝達主義
正直さ：情けなさ

プラス面切り取り主義

規模が小さい

→ 小回りの利くキビキビしたサービス
蔵書が貧弱
→ 授業直結の精選された蔵書構成
スタッフ少ない
→ 家族的な雰囲気,ボランティア歓迎!
専門性に不安
→ とともに学んで成長していく前向き図書館員

ブランディング

基本的な考え方
誰もが簡単に実践
実務応用ハウツー

どうすればいいのか？

本で自習？
広告業界に学ぼう！
やっぱり、ワークショップ！

研修の条件

誰でも簡単にできる
すぐに役立つ実用本位
ワークショップ形式

研修テーマ候補

キャッチコピー講座
広告レイアウト講座
パブリシティ講座
ブランディングシミュレーション講座
デザイン強化合宿講座
例題作成講座
プレゼンテーション講座
スライドショー講座
アドヴォカシー講座

結論

自分ブランディングは使える！
帰ったら速攻で実践！
1年後に総括・発表
総合展で一同再会 (^v

第2部 図書館イメージ革新の事例

■参考資料1：地域密着サービスの理念

1)文部科学省これからの図書館の在り方検討協力者会議「これからの図書館像ー地域を支える情報拠点をめざしてー(報告):2006.3:特に「(5)多様な資料の提供」参照。

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/18/04/06032701.htm

文部科学省これからの図書館の在り方検討協力者会議:平成18年3月「これからの図書館像ー地域を支える情報拠点をめ

ざしてー(報告):2006.3: http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/18/04/06032701.htm

第2章 提案 これからの図書館の在り方

2. これからの図書館サービスに求められる新たな視点

(5)多様な資料の提供

これまでの図書館は、図書の提供が中心であったが、今後は、図書だけでなく、雑誌記事や新聞記事も重視することが必要である。また、地域資料や、地域の機関や団体が発行しているパンフレットやちらしを提供することも、地域の課題解決や地域文化の保存の観点から重要となってくる。

雑誌に掲載される記事や論文の特徴として、その時々に関心の高いテーマを取り上げている、記事の件数や著者の

数が多い、単行本に収録されない情報が多い、詳細な主題検索が可能である、バックナンバーは書店では入手しにくい等があり、調査研究や課題解決支援に不可欠である。

地域資料には、活字資料以外にも写真、8ミリ・16ミリ映画、ビデオ、DVD等の映像資料や音声資料等があり、地域の様子や生活の姿を具体的に記録することができる。しかし、これまで組織的、系統的に保存されていなかったため、歴史博物館や郷土資料館等と連携しつつ、図書館でも系統的に収集する必要がある。また、郷土史、地域文化など地域に関する資料を作成し、出版する役割を担っていくことも必要であ

る。さらに、これらの地域資料を電子化して保存し、デジタル・アーカイブ機能の一環として広範囲に利用できるよう情報発信することも重要である。

講座やセミナー等は、最新の文献を紹介・解説するとともに、

に、まだ資料になっていない最新の知識を提供し、参加者が抱えている問題への回答を直接行える点で情報提供の一環としてとらえることができる。

■参考資料2： 固定観念に囚われないアイデア

1)六本木ライブラリー：<http://www.academyhills.com/library/>

・小林麻実「六本木ライブラリーのアイデンティティ」『情報の科学と技術』56(2), 2006, pp.52-57.

2)平河町ライブラリー：<http://www.academyhills.com/hirakawa/>

・地上 100 メートルの屋上で 足湯に漬かる「読書の秋」 - YouTube: <http://www.youtube.com/watch?v=q3VuzyIRn2E>

■参考資料3： 事件を宣伝に活用

1)舟橋村立図書館

<http://www.vill.funahashi.toyama.jp/facility/library/index.shtml>

2)魚瀬ゆう子ほか『カモンカとしょかん』舟橋村(富山県):舟橋村;2009.

■参考資料 4： ビジネス連携・スポーツ連携

1)鳥取県立図書館：<http://www.library.pref.tottori.jp/>

2)小林隆志/網浜聖子/松田啓代「図書館の活用法を伝授します!! - 鳥取県立図書館の実践から -」『現代の図書館』44-45,2007,11.1,pp.198-205.

3)経営革新,実現へのアプローチ! ~『情報分析』と『戦略策定』がビジネス成功のカギを握る~:

<http://www.library.pref.tottori.jp/hp/menu000001900/hpg000001824.htm>

4)広島市立図書館：<http://www.library.city.hiroshima.jp/index.html>

5)「記念セール,街に活気図書館で資料の展示もサンプレツチェ」1初V」『朝日新聞』,2012.11.26,広島版,朝刊,33 面.

■参考資料 5： 農業連携

1)小山市立中央図書館：<http://library.city.oyama.tochigi.jp/>

2)小山市立中央図書館:特集知識基盤社会における図書館の在り方を探る:公立図書館はどのようにして人々の生活を豊かにするのか:「再チャレンジ」を支援する図書館. 社会教育. 2009;64(2):20-3.

■参考資料 6： 観光ポータル

事例) 小布施町立図書館の挑戦—新しいコミュニティのモデル—

【1】前館長著書

・花井 裕一郎『はなぼん わくわく演出マネジメント』文屋, 2013.1, 256p, ¥1,575.

◎「BOOK」データベースより

映像作家がつくった日本一チャームな図書館。みんながワクワク動きだす場づくり人づくり組織づくり 21 の秘策。

◎Amazon.co.jp より

組織で、企業で、コミュニティで、誰もが活用できる「わくわく演出マネジメント」21 の秘術を初公開!

・東京のテレビ局での映像演出経験を元に飛び込んだ、図書館運営の世界。凝り固まった旧来型の「図書館像」を打ち破り、集いの場、交流の場、創造の場を築き上げてきた 5 年間の軌跡。

・長野県で一番小さな町・小布施の、小さな図書館「まちとしょテラソ」で、公募による館長となった花井裕一郎氏。住民とともに議論を重ね、みんなが納得し、みんなが愛着をもち、みんなが楽しく集う図書館をつくってきました。「わくわく」をキーワードに、スタッフの潜在力を引き出し、一人ひとりが自発的に考え、行動し、発信できる雰囲気演出していった前館長、花井氏。その中でつかみとった組織づくり、人づくり、場づくりの秘訣、「わくわく演出マネジメント」を、本書で初公開しています。

・全国からの視察者が後を絶たず、イベント企画の持ち込み

も多い「まちとしょテラソ」。講演会やアートのワークショップ、ライブなどのイベントが頻繁に開催され、所定の曜日・時刻になると、館内で自由参加によるストレッチ体操を実施。開館時間中は BGM が流れ、館内での会話も、カフェコーナーでの飲食も OK。

・先駆的な取り組みが熱い支持を集め、「Library of the Year2011」(NPO 法人知的資源イニシアティブ)の大賞を贈られました。

・本書を読んだら、あなたもきっと、信州小布施にある「この国でいちばんチャームな図書館」に行きたくなることでしょう。

◎文屋=e-田園ネット=木下豊|文屋公式サイト|

<http://www.e-denen.net/index.php/hanabon>

はなぼん的演出マネジメント 21 の秘訣!

- その1 もてなす
- その2 空気をつくる
- その3 記録する
- その4 飛び込む
- その5 率いる
- その6 募る
- その7 原点に帰る
- その8 議論を尽くす
- その9 ビジョンを描く

- その10 巻き込む
- その11 祭る
- その12 受け継ぐ
- その13 交わる
- その14 冒険する
- その15 獲る
- その16 引き出す
- その17 自立する
- その18 枠を外す
- その19 編集する
- その20 道草する
- その21 ないのに、ある

【2】前館長論文・記事

- 1 花井裕一郎「特集 図書館実践(サービス)の最前線(8)おもてなしから始まる図書館演出」『図書館界』, 64(5), 356-361, 2013-01-00
- 2 花井裕一郎「図書館は、コミュニティメディアだ! : HUB 機能で情報循環を担う(特集 観光ポータルとしての図書館)」『図書館雑誌』, 106(8), 530-532, 2012-08-00
- 3 宮下明彦, 花井裕一郎, 内野安彦 [他]「シンポジウム これからの図書館のあり方と情報化への対応」『平成22年度関東地区公共図書館協議会研究集会報告書』図書館運営研究会 2010年度, 30-37, 2010-00-00
- 4 花井 裕一郎『生活をデザインする』をお手伝いしよう!—交流と創造をたのしむ、文化の拠点 まちとしょテラソ』『平成22年度関東地区公共図書館協議会研究集会報告書』図書館運営研究会 2010年度, 21-24, 2010-00-00
- 5 花井裕一郎「交流と創造を楽しみ、文化の拠点 まちとしょテラソ」『リスン』(141), 14-18, 2009-00-00

【3】前館長ホームページ

NPO 法人 オブセリズム 設立準備室 of OBUSERHYTHM (花井裕一郎さん) <http://obuserhythm.com/>

「ないのに、ある」=『【見えないのにある】みんなの素敵な力』を引き出す演出。

それは、まちづくり活動の拠点となる図書館をはじめとする文化施設(美術館・博物館・文書館等)が「自遊共育」の場になり、まちが元気になるように、アドバイス及び運営支援、地域の活性化を図り広く公益に貢献することです。

「自遊共育」という考えを提唱。映像演出にとどまらず、コンサルタント/コーチ/アドバイザーとしてまちづくり、ワークショップ等の演出をします。

【4】Library of the Year (LoY)

NPO 法人 知的資源イニシアティブ(IRI) <http://www.iri-net.org/loy/>

“良い図書館を良いと言う”

「Library of the Year」(LoY)は、これからの図書館のあり方を示唆するような先進的な活動を行っている機関に対して、NPO 法人 知的資源イニシアティブ(IRI)が毎年授与する賞です。2006年より毎年、図書館総合展のフォーラムとして開催しています。

Library of the Year 2011

<http://www.iri-net.org/loy/loy2011.htm>
優秀賞・最終選考対象・特別賞

2011年は、IRIメンバーおよび外部推薦で寄せられた23施設・団体・サービスの中から、下記の4機関が優秀賞に選ばれ、大賞の最終選考対象となりました。

小布施町立図書館

「交流と創造を楽しむ文化の拠点」として、各種イベントの実施や地元の方100人のインタビューの電子書籍化を行うなど、小布施文化や地域活性化の拠点としての活動を進めている点が今後の地域の公共図書館の在り方の参考となる点が評価されました。

【5】ライブラリーキャンプ

ライブラリーキャンプ 2013 in おぶせ

長野県小布施町で「ライブラリーキャンプ 2013 in おぶせ〜創る図書館を創る／未来の図書館をつくる」を開催、30人限定で参加者募集中

<http://www.facebook.com/events/142920055867221>

第2回を迎えるライブラリーキャンプは、「創る図書館を創る／未来の図書館をつくる」をテーマにした、図書館関係者(図書館で働く方々、図書館関係業界で働く方々、図書館に関心を持つ方々)によるアンカンファレンス方式のキャンプです。(※アンカンファレンスとは、事前に議題を定めないワークショップ方式のセッションです)夜には温泉宿で「ピリオバト in ライブラリーキャンプ」を開催します。また今回は特別企画として、キャンプ2日目の17日(日)に、「まちとしょテラソ」前・館長の花井裕一郎さんとのまちあるきプログラムを用意。「図書館」を中心としたまちづくりに成功している「小布施(おぶせ)」を体感してください。

※ライブラリーキャンプとは?

ライブラリーキャンプは、日常から離れた空間で、図書館関係者が業種や地域を越えてつながり、幅広く「ライブラリー」に関する諸課題を討論する場を創出することを目的とした、宿泊前提のキャンプです。2012年10月に、山梨県山中湖で開催された第1回は、応募開始半月で30名限定の枠が満席となりました。

ライブラリーキャンプ in 小布施(2013.3.16-17)

Itsumi Komura ライブラリーキャンプ in 小布施のアルバムをアップしました。私とのお友達まで公開しています。
<http://www.facebook.com/media/set/?set=a.317736298348906.1073741825.100003376144151&type=3>

【6】見学者による評価

氏原茂将「まちとしょテラソで未来の図書館を考えてみた」『マガジン航』2013年5月17日

http://www.dotbook.jp/magazine-k/2013/05/17/library_as_community/

(川口市メディアセブン ディレクター)

印象

女性スタッフが気持ちのよいトーンで応対
iMac が並ぶブラウジングコーナー
妖怪や地元の絵本作家の選書棚
カーペットが敷かれたキッズスペース
本やグッズの売り場
飲食ができるテーブル
子どもたちがはしゃいでいる
館内にヒーリングミュージック
情報という視点から組み立て

町の図書館の域をはるかに超える取り組み

理想的な公共性の足がかり

対立しかねないニーズが共存
あらゆる活動が混在
利用者相互の自律的な調整
町民にふつうの図書館をもとめる声

職員

司書課程で図書館かくあるべしという理念を学んできた専門職

納得するまで対話

自分たちがまちとしゃべらなを楽しむ

使い方を発見して実装する

それを利用者に伝えていくというサービス精神

自分のパーソナリティを打ち出した「もてなし」

先進性は決定プロセスに

桂英史『人間交際術～コミュニティ・デザインのための情報学入門』（平凡社新書）

◎「コミュニティとしての図書館」

×「コミュニティのための図書館」

「コミュニティとしての図書館」

図書館そのものがコミュニティのモデル

新しい人間交際のかたち

住民の新しい連帯感と帰属意識

図書館の未来

表れてくるニーズをルールによって封じ込めるのではなく、一つ一つの思いに向き合いながら、相互に調整し合う

【7】雑誌の特集

月刊ソトコト 2013年5月号 No.167 4月5日(金) 発売
定価 800円(税込)

<http://www.sotokoto.net/jp/latest/?ym=201305>

進化した「公民館」、それが現代の図書館です。

図書館と聞くと、小さな頃のことを思い出して、ノスタルジックな気分になってきませんか？ 現在のその姿は、びっくりするほどソーシャルにデザインされていて、便利だし、おしゃれだし、イベントもあつたりして、とにかく長居していても楽しい！ これは世界中で同時に進行していますが、日本では、あらゆる世代の交流を最大の目的としてその空間をデザインされた図書館など、地方から続々とユニークな公立の図書館が誕生しています。パブリックのための誰にとってもやさしい知のスペース、古くて新しい図書館を徹底ガイドします！

第3部 館長のキャラを立てる

【1】図書館大好き

【2】館内に溶け込む

【3】市民に知られる

【4】役所で一目おかれる

【5】実業界で頼られる

【6】コミュニティ活動のリーダーになる

【7】全国区の話題でふるさと自慢

第4部 取り組みを開始する

【1】図書館の経営環境と図書館長の役割

【2】奇蹟のV字回復への戦略

【3】図書館と図書館員のイメージを変える

【4】ネックを超えるー具体的・現実的・実行可能な案を作るー

(1) すぐ始められる取り組み

1)作り直す品目

名刺

サイン

封筒

利用者カード

自動車

図書館グッズ

2)見直す必要がある視覚要素

名称・用語

ロゴマーク

キャラクター

デザインコンセプト

3)連携の仕掛け

館内一丸

県内図書館連携

類縁機関連携

地域連携

異業種連携

4)推進体制

改善マインド

改善チーム

(2) 作業のポイント

1)伝えたい内容を絞る

・項目数が多すぎると印象に残らない

・図書館側の複雑な事情は理解できない(興味なし)

・世間一般のサービス業の常識的なレベルは言わずもがな

2)内容を伝えるために構成と演出を変える

- ・利用者目線でどう見えるかを意識
- ・利用者にとってのメリットを中心に
- ・デメリットは上手に言い換える(あえて言わない)
- ・良い印象づけになるように工夫
- ・さまざまなビジュアルアイテムを総動員
- ・まず作る,次に改良
- ・自前と外注を使い分ける

3)図書館と図書館員のイメージを変える

- ・何のための広報？
- ・イメージ戦略の一環として
- ・広報は人のためならず

4)課題の整理

- ・館レベル
- ・自分レベル
- ・地域レベル

5)地域レベルの取り組みアイデア

- ・固定観念に囚われない
- ・現状の壁を打開する突破力
- ・人を引き付ける吸引力
- ・将来への先導力

- ・風呂敷は大きく
- ・大胆にして細心

6)地域レベルの取り組み計画の立案

- ・具体的
- ・現実的
- ・実行可能

7)地域レベルの取り組み計画の提案

- ・課題設定と目的への同意
- ・アイデアへの共感
- ・計画案の修正・強化
- ・実施への地ならし

8)提案の留意点

- ・計画は役所全体計画の一部に
- ・手柄は役所に
- ・話題は全国へ
- ・評判の逆輸入作戦
- ・図書館を地域自慢の種に
- ・役所全体を図書館ファン

* 結論

いつ始めるか？
今でしょ！

以上■

■ 0. 付録

(1)図書館員の自分ブランディング検定 その1:「情報の達人＝指導の達人」編

2013.03.07 奈良県図書館協会公共図書館部会 職員研修会

<https://docs.google.com/spreadsheets/viewform?formkey=dHRtMzVlVGNcCaS0yTEZwWnZuQVdHeHc6MA>

5段階評価(5点満点)

■1.パソコン操作力

Q1. 行頭へ、行末へ、文頭へ、文末へなど、画面上でのカーソルの移動や、文字列のコピーや貼り付けなどの操作では、マウスよりも、主にキーボードのキー(ショートカットキー)を日常的に活用している。

Q2. 会議用の企画書やイベント宣伝用チラシなどをWORDなどで作る際は、簡潔明瞭、図解、見出し、レイアウト、美しい、承認したくなる等の条件をクリアするレベルで、手早く処理している。

Q3. イベントの参加申込受付では、申込と受付の手間を省くため、ファクスやメールではなく、ウェブフォームを活用している。

■2.企画演出力

Q4. オリエンテーション(ガイダンス)、講習会などのイベントの冒頭にプロローグとして、動画や画像、ジョークなどでツ

カミの演出を入れている。

Q5. 利用者や管理者・関係者の目に触れる場面では、図書館員の専門性や、サービスのプロとしての能力・姿勢を強くアピールするよう、配付物や自分自身の見せ方を工夫している。

■3.情報探索法指導力

Q6. 指導場面の条件・状況に応じて、対象者が興味を持って楽しく学べる、効果的な「良い例題」を用意している。

Q7. 指導場面では、「読みにくくてすみませんが…」「あまり適当な例ではないかもしれませんが…」などの言い訳的な禁句を使わないよう意識して説明している。

■4.プレゼンテーション力

Q8. 文字や画像を投影する場合は、最後列からでも判読できる十分な大きさと情報量になるよう、意識して調整している。

Q9. 前を向いて、参加者の様子を見ながら、臨機応変に、堂々と、笑顔で、わかりやすく、説明している。

■5.積極性

Q10. 館内外の会議や各種イベントでは図書館と図書館員の存在感を訴求するべく積極的に参加・発言・アピールしている。特に研修の質疑応答の時間には、最初に挙手している。

◎検定についてのご意見ご要望など

Q11. 回答してみて自慢・反省・感想など(100字から200字程度)

Q12. 設問や回答選択肢について追加・修正したい点があればご提案ください(100字から200字程度)

Q13. 「情報の達人＝指導の達人」編の他にどんな側面を尋ねたいですか？ あればご提案ください(100字から200字程度)

(2)図書館長のための自分ブランディング検定

2013.6.28 全国公共図書館協議会研究集会「図書館長のための自分ブランディング講座」

<https://docs.google.com/spreadsheets/viewform?formkey=dDZVNndFaUMtb3pZVmpfakM3MIF5VGc6MA>

*管理職・館員のかたもご参加いただけます。

【0】回答者編

0-0. 事前課題記入日:

0-1. 氏名:

0-2. 所属館

0-3. 部署

0-4. あなた(回答者)のポジションは何ですか?

館長

管理職

館員

他()

0-5. 図書館勤務経験

[1)1～2年 2)3年～5年 3)6年～10年 4)11年年～20年 5)21年～]

以下、便宜上、市民とは、都道府県、市町村の住民・通勤通学者などを含む潜在的図書館利用者を指すものとします。

【1】館長職認知編

1-1. 館長職は、市民サービスの最前線を担う活動的なリーダーとして役所内で実質的に期待されていますか?

1-2. 館長職は、市民サービス改善に向けて館員を鼓舞・支援する司令塔として図書館内で実質的に認識されていますか?

1-3. 館長は、名前と人物が市民のあいだで広く認知されていますか?

【2】PR・アドボカシー編

2-1. 館長は地域の歴史・記憶を資料として残し公開し活用することに積極的に取り組んでいますか?

2-2. 館長は様々な少数ニーズを積極的にすくい上げてサ

ービス改善に反映させる具体的な施策を強力に推進していますか?

2-3. 館長は商工農など実業界の各種団体の集まりに積極的に参加し、図書館応援団を増やす取り組みを進めていますか?

2-4. 館長は学習・研究・文化関連の各種市民団体との連携・協力を積極的に取り組んでいますか?

2-5. 館長は首長、役所、議会など行政・立法組織を動かす取り組みを積極的に進めていますか?

【3】ブランディング編

3-1. 館長は自館の存在感を市民に印象づけるための総合的な政策としてブランディング活動を積極的に進めていますか?

3-2. 館長は図書館の営業担当として自分自身のキャラクターを前面に押し出して、集まりに参加したり、メディアに露出したりしていますか?

【4】ビジュアル編

4-1. 図書館独自のキャラクターを作成していますか?

4-2. 図書館独自のグッズを作成していますか?

4-3. 図書館独自のロゴマーク・シンボルマークを作成していますか?

*4-3で○と回答された館では、

4-4. ロゴマークやシンボルマークを広報印刷物に入れていますか?

4-5. 館員の名刺は統一フォームで作成していますか?

4-6. 館内外の標識・サイン・掲示は、明確な方針(計画)・マニュアル・書式に基づいて作成していますか?

4-7. 企画・広報を統括する部署は決まっていますか?

以上■

■ 1. 参考文献

●図書館利用教育ガイドライン

- ・日本図書館協会利用教育委員会編『図書館利用支援ガイドライン—図書館における情報リテラシー支援サービスのために(合冊版)』日本図書館協会, 2001.8, 81p: ¥1500
- ・日本図書館協会図書館利用教育委員会編『図書館利用教育ハンドブック(大学図書館版)』日本図書館協会, 2003.3.
- ・日本図書館協会図書館利用教育委員会編『情報リテラシー教育の実践—すべての図書館で利用教育を—』(JLA 図書館実践シリーズ; 14) 日本図書館協会, 2010.3

●オリエンテーション講習会

- ・仁上幸治「大学図書館員のためのオリエンテーション技法:印象づけを重視した構成・演出の改善の試み」『医学図書館』52(1), 2005.3, pp.15-24.
- ・仁上幸治「オリエンはエンタメだ!—素敵な印象を伝えるプレゼンテーションを—」『学図研ニュース』No.229,2005.3.1(特集オリエンテーション)pp.2-5.
- ・仁上幸治「文献調査法の専門分野別最先端情報の共有へ向けて—研究室内知識伝承者を養成するインストラクター講習会の試み—」『ふみくら』77, 2008.12, pp.4-5. [全文]
- ・仁上幸治「情報検索指導における良い例題・悪い例題(初級編)—素材を集め, 問題を作り, 要点を説明する方法—, 日本図書館協会図書館利用教育委員会編『情報リテラシー教育の実践—すべての図書館で利用教育を—』(JLA 図書館実践シリーズ; 14) 日本図書館協会, 2010.3, pp.88-108.

●広報・PR

- ・私立大学図書館協会東地区部会研究部図書館サービス研究分科会広報グループ『図書館広報を考えなおす』, 1982.12.
- ・高橋昇・仲谷由香理・仁上幸治「新図書館とサインシステム計画」『早稲田大学図書館紀要』no.27,1987.3,pp.58-90. [全文]
- ・私立大学図書館協会東地区部会研究部企画広報研究分科会『図書館広報実践ハンドブック—広報戦略の全面展開をめざして—』日本図書館協会発売,2002.9 303p, ¥2381
- ・仁上幸治「ライブラリアンのための広報戦略マニュアル—専門性を訴求する5つのポイント—」『専門図書館』No.225 2007.9, pp.88-93.
- ・仁上幸治「図書館広報はなぜ読みにくいのか(中級編)—レイアウト改善の5つのポイント—」『館灯』47,2009.3.31, pp.124-129.
- ・仁上幸治「図書館を見違えるほど魅力的に!—少人数職場ならではの即効変身術—」『短期大学図書館研究』No.29(2009), pp.49-53.
- ・仁上幸治「何を誰にどう訴えればよいのか」『専門図書館』2009(5), (239), 2010.1, p.2-7.(特集図書館アピール)
- ・仁上幸治「これからの「PR」の話をしよう—いまを生き延びるための図書館経営学—」『病院図書館』30(3), 2011.5, pp.124-132. (特集「図書館のPR」)

●広告

- ・谷山雅計『広告コピーってこう書くんだ!読本』宣伝会議,2007.
- ・宣伝会議コピーライター養成講座編『最新約コピーバイブル』宣伝会議, 2007.
- ・デンツウデザインタンク編著 後藤徹 監修『新アートディレクター入門』電通, 2007.3
- ・姫路市立美術館,凸版印刷株式会社印刷博物館 編『大

正レトロ・昭和モダン広告ポスターの世界 : 印刷技術と広告表現の精華』国書刊行会, 2007.7

- ・眞木準 著『胸からジャック。:心にささる一行メッセージのつくりかた。』大和書房, 2007.7
- ・オプスキュアインク 著『レイアウトデザインのルール : 目を引くページにはワケがある。』ワークスコーポレーション, 2008.2
- ・堀内敬一 著『売れる!チラシのデザインルール』グラフィック社, 2006.6

●CIとブランディング

- ・ケビン・レーン・ケラー(恩蔵直人・亀井昭宏訳). 戦略的ブランド・マネジメント. 第3版. 東急エージェンシー出版部, 2010.
- ・菅谷明子著『未来をつくる図書館:ニューヨークからの報告』岩波書店, 2003(岩波新書 新赤版 837). 735円
- ・中西元男『コーポレート・アイデンティティ戦略—デザインが企業経営を変える』誠文堂新光社, 2010.4.
- ・仁上幸治「図書館の魅力は細部に宿る—「ちょっとした工夫」を超えるブランド戦略—」『ほすびたる らいぶらりあん』36(1), 2011.3, pp.8-14. [全文 PDF]

●図書館グッズ

- ・図書館サービス・ツール研究会編著『ライブラリー・グッズの調査・研究と企画・開発』(平成21年東京都図書館協会研究助成報告書), 2010.2, 33p.
- ・仁上幸治「グッズが図書館を元気にする!—暗い状況でも楽しめる最強秘密兵器—」(特集 ライブラリー・グッズ) [聞き手:鈴木正紀]『大学の図書館』426, 28(5), 2009.5, pp.70-75.
- ・仁上幸治; 中島玲子; 石川敬史「笑顔を生み出す「魔法」の戦略ツール—図書館グッズの研究・開発・普及活動—」『薬学図書館』55(2), 2010.4, pp.94-101.

●プレゼンテーション

- ・石居進『理系のためのPowerPoint「超」入門—プレゼンテーションからホームページ作成まで』(ブルーバックスCD-ROM), 講談社, 2003, ¥1,995
- ・ブルボン小林『ぐっとくる題名』中央公論新社, 2006.9(中公新書)
- ・諏訪邦夫『発表の技法—計画の立て方からパソコン利用法まで—』講談社, 1995(ブルーバックス B-1099), ¥760.
- ・中川佳子『「情報を見せる」技術』光文社新書, 2003.7 ¥850.
- ・藤沢晃治『「分かりやすい表現」の技術—意図を正しく伝えるための16のルール—』講談社, 1999.3(ブルーバックス, B-1245)
- ・藤沢晃治『「分かりやすい説明」の技術—最強のプレゼンテーション15のルール—』講談社, 2002.10(ブルーバックス, B-1387)
- ・ボブ・ボイルン『プレゼンテーション成功の秘訣13』TBS ブリタニカ, 1993. ¥1300.
- ・藤沢晃治『「わかりやすい表現」の技術』講談社, 1999. ¥800. (講談社ブルーバックス B-1245)
- ・藤沢晃治『図解「伝える」技術ルール10—話して伝える, 書いて伝える, 図表で伝える』講談社, 2006.10
- ・岩永嘉弘『一行力』草思社, 2004.4

●指導法

- ・岡本浩一『上達の法則—効率のよい努力を科学する』PHP 研究所, 2002.5 (PHP 新書) ¥714
- ・多和田悟『犬と話をつけるには—駄目な犬の困った飼い主にならないために』文藝春秋, 2006.6, (文春新書)
- ・中野民夫『ワークショップ—新しい学びと創造の場—』岩

- 波書店,2003.04(岩波新書)
- ・畑村洋太郎『「失敗学」事件簿—あの失敗から何を学ぶか』小学館, 2006.4, ¥1300
 - ・吉田新一郎『効果 10 倍の<教える>技術：授業から企業研修まで』PHP研究所,2006(PHP新書)
- 『情報の達人』の歴史
- ・日本図書館協会利用者教育臨時委員会「人・時間・予算の壁を破る利用者教育の強力ツール新登場」『図書館雑誌』1992.11,pp.798-799.
 - ・日本図書館協会利用者教育臨時委員会「利用者教育ビデオシリーズへの熱い期待」『図書館雑誌』1993.8, 1993.8, pp.553-556.
 - ・仁上幸治「情報リテラシー教育と新しい図書館員像—『新・図書館の達人』から『図書館利用教育ガイドライン』まで」『館灯』41, 2003.3,p.39-52.
 - ・仁上幸治「『図書館の達人』から『情報の達人』へ—利用者教育映像教材の進化 15 年の集大成」『図書館雑誌』

- 101(4), 2007.4, pp.238-239.
- ・『情報の達人』ホームページ：
<http://www.kinokuniya.co.jp> (左メニュー下方に入口)
- 図書館長の仕事
- ・『ある図書館長の一 日：市町村立図書館経営の実際』紀伊國屋書店, 1998: (27 分): VHS (図書館の達人; 司書実務編 pt.3 ; 7).
 - ・ちばおさむ『図書館長の仕事：「本のある広場」をつくった図書館長の実践記』日本図書館協会, 2008 (JLA 図書館実践シリーズ; 10).
- カメ
- ・長坂拓也・文 大片忠明・絵『かめ』フレーベル館, 2009 (フレーベル館だいすきせん 26)
 - ・田中美穂『亀のひみつ』WAVE 出版, 2012.8. ★倉敷の古書店「蟲文庫」店主

■ 2. 参考サイト

【1】広告

- ・京都広告塾 編『巧告。：企画をヒットさせるために広告クリエイターたちが考えること』東京：インプレスジャパン, 2007.8 <http://www.impressjapan.jp/books/2442.php>
- ・京都広告塾 編『効告。：企画をヒットさせるために広告クリエイターたちが考えること』東京：インプレスジャパン, 2007.11 <http://www.impressjapan.jp/books/2483.php>
- ・京都広告塾 編『考告。：企画をヒットさせるために広告クリエイターたちが考えること』東京：インプレスジャパン, 2007.10 <http://www.impressjapan.jp/books/2459.php>

【2】広告アーカイブ

- ・新聞広告データアーカイブ：
<http://www.pressnet.or.jp/adarc/data/>
- ・動画 NOW!! CM 企業 一覧：
<http://www.doga-now.com/company/>
- ・宣伝会議：<http://www.sendenkaigi.com/>
- ・PRIR：
<http://www.sendenkaigi.com/hanbai/magazine/prir/>
- ・百式 POP*POP 広告・マーケティング カテゴリー：
<http://www.popxpop.com/archives/cat19/>

【3】デザイン

- ・服部デザイン研究所：「THE Know-How」レイアウト能力：
http://wwwweb.jp/hdi/data/pc/dtl_lyt.html
- ・増田デザイン事務所 Masuda Design Office：
<http://www.ryuumu.co.jp/~mdo/index.html>
- ・グラフィックデザイン：
<http://www.ryuumu.co.jp/~mdo/graphic5.html>
- ・MdN：<http://www.mdn.co.jp/content/view/6/18/> または <http://www.mdn.co.jp/content/category/38/27/55/>
- ・グラフィックデザイン：
<http://www.mdn.co.jp/content/blank/89/130/>

【4】編集

- ・松岡正剛事務所 セイゴオちゃんねる：
<http://www.isis.ne.jp/seigowchannel/>
- ・編集工学研究所：<http://www.eel.co.jp/>

- ・イシス編集学校：<http://es.isis.ne.jp/>
- ・松丸本舗：<http://www.matsumaru-hompo.jp/>
- ・松岡正剛の千夜千冊：<http://1000ya.isis.ne.jp/>

【5】CI とブランディング

- ・パオス：<http://www.paos.net/>
- ・佐藤可士和：<http://kashiwasato.com/>

【6】編集・広告の学校

- ・編集の学校 / 文章の学校：<http://www.editorschool.jp/>
- ・～編集の現場から～ 文章上達のための練習問題：
<http://www.raichosha.co.jp/mm/sentence.html>
- ・宣伝会議：<http://www.sendenkaigi.com/>
- ・宣伝会議の教育講座：
<http://www.sendenkaigi.com/kyoiku/>
- ・京都広告塾：<http://www1.newweb.ne.jp/wa/academy/>

【7】オフィスソフトを自習する

- Microsoft atLife
<http://www.microsoft.com/ja-jp/atlife/>
TIPS(使い方ガイド)
<http://www.microsoft.com/ja-jp/atlife/tips/>
Office (オフィス) の活用方法と Tips をご紹介
<http://www.microsoft.com/ja-jp/atlife/tips/archive/office/navi/office.aspx>
Word
<http://www.microsoft.com/ja-jp/atlife/tips/archive/office/navi/word.aspx>
Excel
<http://www.microsoft.com/ja-jp/atlife/tips/archive/office/navi/excel.aspx>
PowerPoint
<http://www.microsoft.com/ja-jp/atlife/tips/archive/office/navi/powerpoint.aspx>

【8】プレゼンテーションの方法を学ぶ

- ・Presentation.jp (プレゼンテーション総合サイト)：
<http://www.presentation.jp/index.html>
- ・資料作成：
http://www.presentation.jp/prjp/knowhow/siryou/trap_ppt.html
- ・高橋メソッド：<http://www.rubycolor.org/takahashi/>

■ 3. 講師紹介

仁上幸治 (にかみ・こうじ): 帝京大学総合教育センター准教授／元・早稲田大学図書館司書／非常勤講師歴(法政大学・亜細亜大学・東京家政大学・桜美林大学) ◎電子メール: nikamikoji@yahoo.co.jp ★講演生涯合計 138 本(2012 年末時点)

◎ホームページ: <http://sites.google.com/site/nikamik23/>

◎図書館サービス計画研究所(略称トサケン): <https://sites.google.com/site/tosaken23/>

◎教材開発

・ライブラリービデオシリーズ『情報の達人』全3巻(DVD), 紀伊國屋書店, 2007.2.

◎著書

・日本図書館協会図書館利用教育委員会編『図書館利用教育ガイドライン—図書館における情報リテラシー支援サービスのために(合冊版)』日本図書館協会, 2001.8, 81p: ¥1500

・私立大学図書館協会東地区部会研究部企画広報研究分科会『図書館広報実践ハンドブック—広報戦略の全面展開をめざして—』日本図書館協会発売, 2002.9 303p, ¥2381

・戸田光昭[他]共著『改訂 専門資料論』樹村房, 2002.10 (新図書館学シリーズ第8巻), ¥1900

・日本図書館協会図書館利用教育委員会編『図書館利用教育ハンドブック(大学図書館版)』日本図書館協会, 2003.3

・三浦逸雄, 野末俊比古(共編著)『専門資料論』新訂版, 日本図書館協会, 2010.3 (菅野育子, 高橋昇, 仁上幸治共著)(JLA図書館情報学テキストシリーズ, II-8)

・大学導入教育研究会編『よくわかるライフデザイン入門—大学生のための必須学習術—』第二版, 古今書院, 2011.2.10. 120p. ¥1900.

・日本図書館協会図書館利用教育委員会編『情報リテラシー教育の実践—すべての図書館で利用教育を—』(JLA 図書館実践シリーズ; 14) 日本図書館協会, 2010.3

◎最近の論文

・「何を誰にどう訴えればよいのか」『専門図書館』2009(5), (239), 2010.1, p.2-7.(特集 図書館アピール)

・[研究文献レビュー]「図書館の「広報」は進化しているか?—説明責任と自己アピールの時代に求められる理論と実践—」『カレントアウェアネス』No.305, 2010.9, pp.16-24 [CA1728] HTML 版: <http://current.ndl.go.jp/ca1728>

・「情報リテラシー底上げ奮戦記—自習時間ほぼゼロ学生のための論文・プレゼン指導—」『帝京大学総合教育センター論集』(2), 2011.3, pp.83-105.

・「図書館の魅力は細部に宿る—「ちょっとした工夫」を超えるブランド戦略—」『ほすびたる らいぶらりあん』36(1), 2011.3, pp.8-14.

・「図書館利用教育における「指導サービス」概念の形成—日本版ガイドラインの作成過程を中心に—」『日本図書館情報学会春季研究集会発表要綱』(2011.5.14), pp.91-94.

・「これからの「PR」の話をしよう—いまを生き延びるための図書館経営学—」『病院図書館』30(3), 2011.5, pp.124-132. (特集「図書館のPR」)

・「マルチメディアのフル活用による双方向授業の試み—スライドショー, 映像教材, ファイル配布・提出, アンケートの各システムを使い切る—」『帝京大学情報処理センター年報』

(13), 2011.3.31, pp.77-91.(実刊行日: 2011.7.25)

・「図書館利用教育における「指導サービス」概念の射程—情報リテラシー教育という枠組みの可能性と限界—」『日本図書館情報学会秋季研究集会発表要綱』(2011.11.12), pp.53-56.

・「学校図書館のブランディング戦略—評価されるためにギリギリまで工夫を!—」『学図研ニュース』No.326, 2013.4.1, pp.2-6.

・「図書館長のための自分ブランディング講座—内外に味方を増やすキャラクターの作り方—」全国公共図書館協議会研究集会講演録(2013.06.28—東京都立中央図書館)(刊行予定)

・『図書館員のための自分改造講座』(シリーズ)(2013年2月刊行開始)

・「情報リテラシー教育を担う小中学校教員をいかに養成するか—教職志望学生の徹底改造を目指す司書教諭科目からの提言—」『帝京大学総合教育センター論集』(4), 2014.3(刊行予定)

・「情報メディアの活用力を基礎から鍛える演習授業の工夫」(仮題)『帝京大学情報処理センター年報』(15), 2014.3(刊行予定).

◎最近の講演(2012-)

・2012.01.12—関東地区公共図書館協議会 図書館運営研究会「図書館ブランディング「超」入門—何を誰にどうアピールするか—」浦和コミュニティセンター

・2012.01.26—仙台市民図書館研修「魅せるレファレンスサービスの極意—専門職のサバイバル戦略を練り直す—」仙台市泉図書館

・2012.01.28—MULU(みちのくライブラリアン連合)11月茶話会 話題提供「図書館ブランディング「超」入門講座—何を誰にどうアピールするか—」東北学院大学中央図書館

・2012.02.03—岐阜県図書館協会図書館活動研究大会 大会テーマ「広報戦略の実践へ!」講演「図書館ブランディング「超」入門—自己アピールのための広報戦略—」岐阜県図書館 研修室

・2012.02.16—国立大学図書館協会中国四国地区協会研修会「大学図書館の広報を考える」講演「大学図書館員の自分ブランディング戦略—専門職サバイバルのための非公式マニュアル—」広島大学東広島キャンパス

・2012.02.18—大学図書館問題研究会兵庫支部 2 月例会兼 トサケンセミナー「4 月に使える! 新入生ガイダンスの小ワザ即効テクニック!」講演「イマドキ学生気質報告—司書課程受講生に見る理想の図書館員の能力と姿勢—」キャンパスポート大阪

- ・2012.02.24-芝浦工業大学図書館ガイダンス研修【講演とワークショップ】「オリエンテーションをもっと魅力的に！一歩でできる好感度アップ企画・演出術」芝浦工業大学 豊洲キャンパス
 - ・2012.02.27-帝京大学総合教育センター「公共図書館及び学校図書館スタッフ向けスキルアップ・セミナー」第1回・図書館広報講座「図書館ブランディング「超」入門 ～何を誰にどうアピールするか～」（講義とワークショップ）帝京大学メディアライブラリーセンター情報学習室
 - ・2012.04.27-私立大学図書館協会企画広報研究分科会(1)-分科会の歴史 帝京大学メディアライブラリーセンター
 - ・2012.06.08-私立大学図書館協会企画広報研究分科会(2)-ブランディング 昭和女子大学 80年館 図書館
 - ・2012.08.22-京都図書館大会-自分ブランディング検定 国立国会図書館関西館
 - ・2012.08.23-トサケン名古屋勉強会-自分ブランディング検定 MYCAFE(名古屋市伏見)
 - ・2012.09.03-私立大学図書館協会企画広報研究分科会(3)-利用者教育論 立正大学
 - ・2012.09.14-埼玉県図書館協会平成24年度第4回図書館中級職員研修会 講義とワークショップ「図書館ブランディング実践講座-明日から使える即効ワークショップ-」埼玉会館 6D会議室
 - ・2012.09.29-全国女性会館協議会・日本女性学習財団2012年度地域における男女共同参画関す研修事業「女性関連施設の情報発信を再設計する-“アクティブ”を印象づけるブランド化戦略-」講義・ワークショップ「ブランディング超入門-何を誰にどうアピールするか-」日本女子会館5階会議室
 - ・2012.11.21-図書館総合展フォーラム-トサケンセミナー「図書館員のための自分ブランディング検定」基調講演「図書館ブランディングの現在」パシフィコ横浜
 - ・2012.12.14-図書館地区別研修中国・四国地区 講義とワークショップ「図書館ブランディング実践講座-何を誰にどうアピールするか-」岡山県立図書館 2階 多目的ホール
 - ・2012.12.14-播但図書館連絡協議会研究集会「パスファインダー超簡単講座-新しい案内ツールをどう作るか-」姫路市立城内図書館 2階 大会議室
 - ・2013.03.07-奈良県図書館協会公共図書館部会 職員研修会 講義とワークショップ「図書館ブランディング実践講座-見られたいイメージを地域ぐるみでアピールしよう-」奈良県社会福祉総合センター
 - ・2013.03.07-図書館サービス計画研究所 トサケンセミナー in 三重「図書館員の自分ブランディング実践講座-見られたい自分イメージのコンセプトマッピング-」酒テラス津 Bamboo(三重県津市)
 - ・2013.03.28-私立大学図書館協会企画広報研究分科会 月例会 講演(4)「図書館オリエンテーションの検証-ガイドラインの目標はどこまで達成されたか-」帝京大学メディアライブラリーセンター
 - ・2013.06.28-全国公共図書館協議会研究集会「図書館長のための自分ブランディング講座-内外に味方を増やすキャラクターの作り方-」東京都立中央図書館 4階 多目的ホール
 - ・2013.07.06-07-大学図書館問題研究会 福岡支部 特別研修「ハードコア・ノンユーザーの心をつかむ図書館ブランディング ～潜在ユーザー発掘大作戦～」九州女子大学・九州女子短期大学付属図書館 3F 多目的学習室(福岡県北九州市)
 - ・2013.08.06-和歌山県学校図書館研究会学校司書部会研究会「もし学校図書館のマネージャーがケラーの『戦略的ブランド・マネジメント』を読んだら～イメージ革新のための劇的ビフォーアフター～」県民交流プラザ和歌山ビッグ愛(和歌山県和歌山市)(和歌山市)
 - ・2013.08.11-大学図書館問題研究会全国大会第8分科会:利用者支援「イマドキの大学生のココロをつかむ-初年次教育・図書館ガイダンス・授業の導入部にもっと工夫を!-」つくば国際会議場(茨城県つくば市)
 - ・2013.08.23-24-九州地区私立短期大学図書館協議会研修会「忙しい図書館員のためのPC使い倒し「超」実用講座-省力効果絶大な便利技をマスターしよう!-」精華女子短期大学(福岡県福岡市)
 - ・2013.08.24-岡山県青年図書館員研修会サマーセミナー×交流会「おとなしい図書館員のための図書館PR大作戦!-企画・広報の即効お役立ち小ワザ交換会-」Cafe&Dining PEACH(岡山県岡山市)
 - ・2013.08.25-金光図書館ミニセミナー「図書館員と図書館長のための自分ブランディング講座-内外に味方を増やすキャラクターの作り方-」金光図書館(岡山県浅口市金光町)
 - ・2013.08.25-大学図書館問題研究会兵庫支部例会 兼 トサケンセミナー「イマドキの大学生のココロをつかむ-初年次教育・図書館ガイダンス・授業の導入部にもっと工夫を!-」関西学院大学大阪梅田キャンパス(大阪市北区)
 - ・2013.10.12-未来フェス(デジタルメディア研究所・図書館サービス計画研究所共催)「未来図書館創造会議」基調講演(ウイングス京都、京都市)
 - ・2013.10.18-石川県公共図書館長会議「図書館長のための自分ブランディング講座-コンセプト作りからデザイン展開へ-」(石川県立図書館、金沢市)
 - ・2013.10.29-図書館総合展 企画広報研究分科会 30周年シンポ 基調講演(パシフィコ横浜、横浜市)
 - ・2013.11.14-私立大学図書館協会東地区部会研究部研修会「みつけよう・伝えよう 大学図書館の魅力」(桜美林大学町田キャンパス)
 - ・2013.12.05-文部科学省図書館地区別研修-関東・甲信越静地区「図書館ブランディング入門-内外に味方を増やすコミュニケーション戦略-」(神奈川県立川崎図書館)
 - ・2013.12.28-教員免許状更新講習「学校図書館の活用」(帝京大学・八王子)
 - ・2014.01.31-山梨県図書館職員専門研修「図書館ブランディング入門-内外に味方を増やすコミュニケーション戦略-」(甲府市立図書館)
- *講演予定(一部未定)**
- ・2014.09.04-05-私立大学図書館協会中国四国地区研究会(岡山市)
 - ・2014.09.11-12-私立大学図書館協会東海地区協議会実

務担当者研修会(名古屋市)

以上
(にかみ・こうじ／配付資料／2014.1.30 作成) ■□■